

令和4年度 年間授業計画

都立田無工業高等学校

教科・科目		工業 実習		単位数	3
対象学年・組		2学年建築科	教科担任	AA:垣内・後藤・深澤・石上・櫻井・土田 AB:大内・後藤・廣瀬・石上・櫻井・土田	
教科書・副教材		新版 建築実習1・2 新版 建築実習1・2			
1. 目標 座学だけでは得られない建築現場や建築材料、造形等に関する基礎的な技術や知識について作業を通し、協力性・安全性・作業能率・正確(精密)性についての素質を培う。					
2. 学習内容と学習上の留意点					
学期	月	単 元	指導内容・指導目標	予定時数	
1 学 期	4	オリエンテーション	・実習の目的や心構えを理解させ、安全に実習に取り組ませる。 ・各実習の内容や持ち物を把握させ、円滑に実習ができるように意識させる。	1	
	5	建築材料Ⅰ 単位容積質量試験、 ふるい分け試験、 調合設計、スランプ試験	・試験の目的や内容、手順を把握させ、仲間と協力して作業を行わせる。	9	
	6		・数値の丸め方など正しいデータの読み取り方を理解させる。 ・試験後の結果や考察、感想をまとめ、レポートを書かせる。	12	
	7	造形Ⅰ 外観パース、着色	・透視図法の基礎的な知識および技法を理解させる。 ・建物の外観を立体的に書くことで建物のイメージを把握させる。	6	
1学期授業時数計				28	
2 学 期	9	基礎実習 遣方、根切り、 型枠設置、コンクリート打設	・基礎実習に関する用語を理解させ、作業の流れを把握させる。 ・セオドライトの扱い方を復習し、遣方や根切りの方法を実際に行い理解させる。	12	
	10		・布基礎をつくるときの作業順序・施工方法を実際に行い理解させる。	12	
	11	建築材料Ⅱ コンクリート強度試験、 鉄筋引張試験、 木材強度試験	・コンクリートの圧縮強度試験を行い、設計どおりの圧縮強度であるかを調べ、その試験方法を理解させる。	9	
	12		・鉄筋の引張試験を行い、鉄筋コンクリート構造用として鉄筋が適否かを判断し、試験方法を理解させる。 ・木材(ヒノキ、マツ、集成材)の圧縮強度試験を行い、木材の性質や試験方法を理解させる。	9	
2学期授業時数計				42	
3 学 期	1	造形Ⅱ 内観パース、CAD、着色 軸組実習 建方、仕上げ、解体	・透視図法の基礎的な知識および技法を理解させる。 ・建物の内観を立体的に書くことで室内のイメージを把握させる。	9	
	2		・土台すえ、柱建て、梁架設作業の方法を理解させる。 ・建入れ直しを行い、柱梁が正しく配置されているか確認させる。	12	
	3		・小屋組、筋かい、壁下地の作業方法を理解させる。	6	
	3学期授業時数計				27
年間授業時数合計					97
3. 評価の観点・方法 ・レポートおよび課題の提出状況、授業に望む姿勢・態度など、総合的に評価する。 ・レポート提出が求められている実習については、提出がない場合は不合格とする。 ※ 本校の実習系科目は、限られた授業内で1学年から継続的な流れで知識・技能・技術を習得するものであり、単に技能等の要素を取り出すものではない。そのため、すべてのレポートの提出をもって初めて総合的な評価を行うことができる。 【評価の割合】 軸組(作業8:提出物2) 材料(作業5:レポート5) 造形(作業8:作品2) ※ 生徒の学習進度により、授業内容に若干の変更が生じる場合がある。					